

ネズミ侵入ルートは何処だ!?

株式会社 ビートシステム 井上 貞雄

想定していなかった箇所からのネズミ侵入があった事例について紹介したいと思います。

7年程前の年末、あるアパートの管理会社からネズミ駆除の依頼がありました。20世帯程度の居住者がいる建物で、一部の部屋の天井裏から物音がしており、ネズミが居るのではないかとの指摘があったそうです。

「アパートでもネズミはたまに出没しますよ～。ただ、物音だけでは正体不明ですし、まずは現場調査をしつつ、確認していきましょう。」

日程調整を行い、よくある事案の1つという認識で、いつも通りの準備をしつつ、現場に向かいました。

到着し、音が聞こえている複数の部屋の天井裏を点検すると、確かにクマネズミの痕跡があり、相手が獣類でないことを確認。そして、建物の外周を点検。通風口隙間から床下の地面をチェックし、ベタ基礎であることを確認。これなら地下鉄や地下街の接続で隙間がある等の影響がなければ、地中からのネズミ侵入はない・・・、それならば外周のどこかに隙間があるか、木の枝などを伝って屋根隙間とかからの侵入か・・・。周囲を点検し、配管付近に侵入可能な隙間を発見。他には何もなし、周囲には屋根に登れる環境もない・・・、ふむふむ、ここを塞ぎつつ、殺鼠剤や粘着板を使えば、一定期間で沈静化する確率が高そうだと判断。



その後、防鼠工事、殺鼠処置、捕獲対応を行いつつ、2ヶ月程度で無事に状況は沈静化しました。

・・・ですが、沈静化の1ヶ月後、再度、ネズミが天井裏に出始めたとの連絡をもらい、現場を再訪問しました。前回作業時に外周はしっかり点検し、侵入箇所を塞いだうえでネズミ駆除を実施しており、どこから入ったのかと疑問を感じながらもまずは周囲点検。しかしながら、新しく侵入した形跡もなく、やはり外壁にはもう侵入可能な箇所はないとの結論以外を導き出せませんでした。

室内側からの殺鼠処置と捕獲対応をしつつ、どこからか現れたネズミの侵入箇所は何処かと思案している中、1階の居住者が退去するので原状回復工事をするとの情報があり、普段見れない箇所を見ることが出来るとのことで現場に立ち合わせてもらいました。床下はベタ基礎なので心配ないものの、周囲に何かしらの手がかりが見つけれないかと考えたのです。フローリングを張り替えるとのことだったので、一度、床下を覗かせてもらおうかと、一部の床を開口してもらい、いざ床下へ侵入!

床下は外部の通風口から視認した通り、ベタ基礎になっており、何の問題もなさそうです。ですが、風呂場の付近まで進んでみると…。

最初の違和感はベタ基礎の感触から急に土壌の感覚に変わったことでした。周囲の地面を見渡すと、風呂場の周囲についてのみ、ベタ基礎の範囲が不自然に途切れており、土壌が剥き出しになっていました。そして、ネズミが地中から侵入していたと思われる穴も複数発見できました。



この配水管の繋がっている先は浴室でした。通常であれば、配水管同士が繋がれているのですが、この状態では風呂場で流した水が全て床下にダイレクトに排出されます。水の力は凄いもので、僅かな水量でも、石を削っていくとは聞いていましたが、大量ならば、その破壊力も別物でしょう。もともとはベタ基礎だった床面が削られて土壌剥き出しになったのはこれが原因だったのか、と認識させられました。この状況が、竣工当時からか、ユニットバス入れ替えの時代か時期は不明ですが、配管の繋ぎ忘れか、手抜き工事のどちらかが主因だったのではないかと思います。

しかしながら、増築部分ならまだしも、同時期にベタ基礎で作られたアパートにおいて、部分的に土壌が剥き出しになっているイメージは全くありませんでした。何故？と思いながら上を見上げると…、

!!!!



ほどなく、入居者が入る予定だったので、継続しての床下ネズミ対策作業は出来なかったものの、配管の簡易的な接続処置と穴埋めを引き継いで当日は作業完了としています。また、周囲については少し離れた陥没箇所についてもケアするようにし、その後、状況は沈静化しています。

ベタ基礎の場合は、「災害級の地震の影響や、駅や地下街と接続してなければ、地中からの侵入はほぼありません。だから、外周を塞ぎきれば、ほぼ大丈夫ですね〜。」と説明していました。

ですが、この事案を経験してからは見た目がベタ基礎であっても絶対はないことを依頼者に話すようになりました。この頃はちょうど、博多駅前で大規模な陥没事故が起きた頃であり、見えないところでもそういった事案があったことで理解を得られ易かったように思います。

それ以降はこのような事案は経験していませんが、「こんなことは絶対にありえない」といった先入観をなくして見ることも時には必要と感じたネズミの現場でした。

